



郵政博物館
研究紀要

郵政歴史文化研究会編

郵政博物館 研究紀要

平成26年度 第6号 (2015年3月)

平成26年度 第6号 (2015年3月)



公益財団法人通信文化協会

表紙解説

『郵便取扱の図』（郵政博物館所蔵）柴田真哉⁽¹⁾筆

第十一図 鉄道便と郵便物の積卸し

日本初の鉄道は、明治5年9月12日（1872.10.14）新橋・横浜間で正式開業したが、郵便物は品川・横浜間で仮開業した時から搭載されていた。当時は新橋から横浜までが鉄道で、それより先は郵便馬車等で運ばれていた。郵便御用と書かれた郵便車には、明治6（1873）年から郵便護送人が搭乗するようになり、明治8（1875）年からは駅構内に設けられたポストの郵便物の押印等も行った。明治22（1889）年になって東海道線が全線開通し、東京・神戸間を約20時間で郵便物を運んだ。郵便車内で郵便物の区分を開始したのは明治25（1891）年からである。

第十二図 郵便船への積み込み

この船は横浜郵便局の郵便船「第一飛鴻丸」で、横浜港内に碇泊している外国汽船との郵便物の受け渡しを行った。船腹にIMPERIAL MAILと書かれている。枳車上部の郵袋⁽²⁾に英語表記が見える。この当時、外国宛での郵便はすべて外国汽船に搭載されていた。

1 『郵便取扱の図』については『郵政博物館研究紀要』（創刊号、2010年）表紙裏解説を参照。

2 郵袋（ゆうたい）とは、郵便物を入れる袋。